

Get Heart



特
集

意見交換会

テーマ「風水害への備え」

特別講演

「日野川流域の歴史について」

【たたら生産と鉄山政策（流砂対策）】

影山 猛さん

第7回「日野川フォトコンテスト作品審査結果」

表紙写真

第7回 日野川フォトコンテスト入賞作品 一般Bの部 入選 佐伯 範夫さん
撮影場所：黒坂（日野川）

「日野川雪景色」 日野川沿いの雪景色を楽しみながら旅するのもいいですね。

第7回 平成16年 日野川フォトコンテスト作品

審査結果表

部門	審査結果	題名	氏名	住所
一般A	金賞	龍王滝と巨木	森本 康弘	米子市
	銀賞	パラサーフィン	富士原寿和	米子市
	銀賞	米子大橋冬景観	檜 宏光	米子市
	銀賞	鮎のぼる頃	妹尾 賢次	米子市
	銅賞	新緑に流れて	亀尾 茂範	米子市
	銅賞	捕食者の群れ	久野 幸雄	鳥取市
	銅賞	朝霧	大森 博	米子市
	銅賞	「緑水湖」秋の彩り	小谷 元伸	日野郡江府町
	銅賞	早春清流	武島 吉孝	米子市
	佳作	早春譜	野坂 正昭	日野郡日野町
一般B	入選	厳寒	谷口 麗子	鳥取市
	入選	太公望	矢畑 哲也	米子市
	入選	川遊び	道下 信吾	米子市
	入選	日野川雪景色	佐伯 範夫	安来市
	入選	姉と弟	池淵 和久	米子市
	佳作	雪景色	橋本 敦子	境港市
	佳作	パパの遊んだ川だよ	赤木美智子	日野郡日南町
	佳作	水しぶき	橋谷 俊二	日野郡江府町
小・中学生	入選	パンツいっちょ〜！川遊び	池淵 美和	米子市
	入選	滝とうき	石倉 雅人	米子市
	入選	ルン?気分	奥田 香織	米子市
	入選	日野橋	吉崎 文香	米子市
	入選	川	佐々木絵梨奈	米子市
	入選	日野橋	遠藤由有子	日野郡江府町



「龍王滝と巨木」
森本 康弘(米子市)



「パラサーフィン」 富士原寿和(米子市)



「米子大橋冬景観」 檜 宏光(米子市)



「鮎のぼる頃」 妹尾 賢次(米子市)



「新緑に流れて」 亀尾 茂範(米子市)



「捕食者の群れ」 久野 幸雄(鳥取市)



「朝霧」 大森 博(米子市)



「緑水湖」秋の彩り」 小谷 元伸(日野郡江府町)



「早春清流」 武島 吉孝(米子市)

(第10回 日野川への想いを語る会の中で、第7回 日野川フォトコンテストの入賞者表彰式を行いました。)

編集後記

新年、明けましておめでとうございます。
 昨年は、観測史上最多の10個もの台風が日本上陸し、各地で大きな被害を及ぼしました。
 日野川では、水防団の方々をはじめ地域の皆様のご協力をいただき大きな被害もなく無事新年を迎えることができました。本当にありがとうございました。
 これからも日野川が災害に強く、そして流域の皆様が愛され、親しみを持って頂けるように様々な形で努力していきたいと思っています。
 2005年今年もよろしくお祈りします。

S.O

あなたのこころを

GET HEART

GET HEART
第29号

発行
 ・日野川への想いを語る会
 編集事務局
 ・国土交通省日野川河川事務所

〒689 - 3537
 米子市古豊千 678
 TEL (0859) 27 - 5484
 ホームページアドレス <http://www.cgr.mlit.go.jp/hinogawa>

「川」について、意見、質問、要望、何でもええけ、便りごしない。待ちちょうけんね。



「日野川流域の歴史について」

【たたら生産と鉄山政策(流砂対策)】

講師

たたら研究会全国委員(鳥取県代表)

かげやま たけし
影山 猛 さん

江戸期から、「木のあるところにたたらを打ち込む」というのが原則でした。たたらを1年間経営するために必要な山林は約90町歩から100町歩です。5、6年もすると周りには山の木が無くなるので、たたらは7、8年で別の場所に移動していました。

木を切るときに「根切り」をしますが、炭になる樹齢25～30年の広葉樹の場合、根から必ずわき芽が出てきます。「出た芽は切らずに山を再生するんだ。わき芽を絶対にこれは切ってはいけない」という原則も、江戸期何百年を通して守られてきたようです。1年ぐらいで小さな木になっていくのです。だから「山の木を切ったから洪水が起こるんだ」というのは誤りで、江戸期の文書を読んでも「山の木を切ったから水が出たんだ」という記事はありません。広葉樹林が守られてきたことでむしろ洪水は起こらなかったのではないかと考えております。



今から140年ほど前の元治元年に、藩の方で「米子近くの日野川が洪水になるのは、たたらに必要な砂鉄を取った後に廃砂を流すのが原因ではないか。砂鉄を取る“鉄穴”という場所を半分に減らせ」という命令が出て、調査があり、465箇所の流し場の内、115箇所が休業しています。これまでの流した総量を計算してみますと、大山の5合目から上の量に匹敵する4億から4億5,000万立方メートルもの山の砂を削っていました。これは中海を3分の1ほど埋めるほどの量です。これが日野川に流れ出て、昔は浜の目といわれた弓浜半島の外浜を形成していったと思います。砂鉄は一升の真砂土から耳かき1杯しか取れないので、廃砂はすごくたくさんあったわけです。

山口大学の教授が弓浜半島をボーリングしてみましたところ、たたらから流れたと思われる小さな鉄滓(スラグ)が出てきたため、その場所は日野川から流れた水と砂で形成されているということが明らかになりました。現在のように砂の供給がなくなり、たまった砂も流れ出してしまうと、皆生の海岸が侵食され、弓浜半島もやせてしまいます。たたらにはそういう利点もあったと考えてほしいと思います。明治26年に大きな水害がありました。このときたたらも大きな被害を受けておりますが、米子の人々が当時の内務省に「日野郡の鉄穴流しが原因だ。鉄穴流しや砂鉄採取はやめさせてくれ」と陳情に行かれたそうです。これに対してたたらを経営する近藤家は、「砂は、大水が出れば流れてしまう。むしろ浜の目の土地をつくっているのではないか。洪水の原因は白水川や船谷川、そのほか大山から流れる川がごろごろ火山岩を出して地下にたまるからだ。その証拠に米子あたりに行ってみなさい。堤防は全部火山石や火成岩を使っている。日野川の奥から来た石ではないでしょう」と反論されました。これでその後の陳情はやめになってしまったそうです。

以上のように、「山の木を切ったから洪水が起こる」というのは実は誤りで、むしろたたらは保水力で日野川の水を守ったということを理解していただきたいと思います。現在、日野郡で約6割の植林は人工林ではないかと思えます。現在の針葉樹林より昔の広葉樹のほうが山の保水力があったのではないかと思います。

今回で第10回となる「日野川への想いを語る会」がこのほど、日南町総合文化センターと日南町役場で開催されました。第7回日野川フォトコンテストの入賞者表彰式と特別講演が行われ、意見交換会では、今年台風上陸が史上最高の10個を記録し大規模な水害が全国的に多発したことから「風水害への備え」をテーマとして、日野川流域の市町村長と河川を管理する鳥取県と国土交通省日野川河川事務所が様々な取り組みや想いを紹介して、意見交換が行なわれました。



～意見交換会 テーマ「風水害への備え」～

米子市



中井建設部長

ハザードマップと防災マップを作成して住民に配布し、災害に対する意識の高揚に努めています。対策本部をあらかじめ定め、水害のおそれのあるときには情報連絡経路に基づいて住民に周知し、最寄りの避難施設に避難していただくようにしています。米子市は全市に防災無線をすべて完備していますので、緊急時のときの伝達方法は十分ではないかと思っています。

訓練等は、鳥取県西部地震を教訓として年に1回、校区を定めて火災等の訓練も含めながら避難施設への避難訓練を実施しています。

要介護者と言われる高齢者を把握する名簿を福祉部局でつくっていますが、災害弱者の対策として災害時にその名簿を使えるシステムがまだ構築されていない状況にあります。現在、国において避難支援ガイドラインが考えられているので、その考え方を基本に自主的な申し出や本人の同意によって避難対象者をリストアップしながら、緊急の場合に限り活用できる方法はないかと検討しているところです。

日吉津村



石村長

先日の台風時の失敗例として、防災無線の受信機の乾電池が寿命がきたままで、換えていなかった家庭がありました。これは村民に改めて徹底をしていく必要があります。洪水ハザードマップを全村に配布し、洪水の際には1メートルから2メートルの浸水をするということを、改めて自治会へ説明しています。全村が平坦地なので仮に局地的な集中豪雨被害を想定したときに避難路が絶たれてしまうということもありうるので、非常に難しい状況が出ると思います。

災害に対する行政と住民との一体的な取り組みについて方向を定めようと、この11月中旬に図上による防災訓練をいたしました。行政、福祉協議会、公共施設、小学校、保育園とそれぞれ役割はどうするのか、自治会はどう対応するのかとワークショップをいたしました。皆さん初めての経験で戸惑いもありましたけれども、さまざまな意見が出ましたので、今後も災害の対策について進めていきたいと考えています。

岸本町



河合町長

おかげさまで日野川の方は堤防がほとんど改良していただきまして、日野川に限っては、この間の台風23号のときも、少し水が出たかなあという感じで庁舎から眺めさせていただいております。町内を流れる河川につきましても、かなり整備が進んでおりますので、今は雨が降りましても、浸水はほとんどありません。

このため平成12年の地震以降、地震にどう対応していくかということは常々話はしていますが、水害についてはあまり検討したことはありません。

以前、平成10年に会議で溝口へ行きました際に、国道のぎりぎりのところまで水が来ていたことがありました。今度は溝口町と一緒に伯耆町になりますので、溝口の丸合から少し上流の部分について、新しい町長によく注意してもらおうように言っておかなければならないと考えています。

南部町

鳥取県西部地震から以降、自主防災組織を作らなければということで積極的な働きかけと地元の協力で、50を超える集落で自主防災組織が結成され、自主訓練をやっていただいています。ただ、水害を想定した訓練は現在ありません。

先般もコンサルタント業者から洪水ハザードマップを作ってはと提案があったのですが、重要工作物であるダムが決壊するというような話ですから、ダムを管理していただいている県との連携の中でないといけないところです。

私は水位や時間雨量、積算雨量についての危険基準が、はっきりしていないと思います。それぞれの地域ごとに設定がなければならないのではと思います。

仮に避難命令を出しても、「いや、大丈夫だ」と言われてなかなか応じられない方もありますから、やはり日常的に訓練をやっておかなければならないという気がしています。



坂本町長

日南町

災害時に電気も電話もすべてダメという状況の中では、防災無線が一方通行ながら唯一の情報提供手段としてあります。その辺で情報の把握、現場の把握というのがなかなか難しい面もあります。

日南町のように高齢化し、独居老人あるいは老人だけの世帯が多い地域については、勧告まではなかなか難しく、いざというときには自主避難をしていただくことが一番ではないかと考えています。

水防対策はあらゆる面から検討しなければなりません、情報の相互提供ということではやはり市町村が一番もともになると思っています。国、県、あるいは消防との連携ということが今後重要になってくるなということを感じました。

市町村の役割はやはり身近な問題として、食糧や福祉、住宅のお世話だと思います。社会資本の整備としての水防対策は国、県で積極的に取り組んでいただきたい。自分の地域は自分で守るのが基本になりますが、役割分担をよろしくお願ひしたいと思っています。



矢田町長

日野町

根雨駅の上に鉄橋がありますが、これに日野川の水がちよこちょこ当たるようになると、「たくさんに降ったなあ。水が出たなあ」と思うのが、住民の皆さんの考え方であり認識だと思っています。これが日野川水域の警戒水位あるいは危険水位というような感じています。4年前の地震を機会に、10月6日を防災の日として、毎年、全町一斉に防災訓練を行っています。地震と風水害はちょっと違いますが、住民の命を守るということについては、ともに助け合うということが大切であると、自主防災組織の強化を図っています。自治会ごとに防災責任者をつくり、避難場所や情報をどのように流し収集するかということで、住民のリストをつくって災害の弱者を把握するということも行っています。

日野町では1戸、2戸で点々と民家が存在します。大きな災害が起きた場合には土砂が民家を押し流したり、直撃することも考えられます。今後とも急傾斜対策のような事業をぜひとも続けていただきたいと思っています。



梅林町長

江府町

自主防災組織の活性化が大切だと思います。水防等も含め一番身近でまとまりやすい地域の自主防災をきちんとしていきたいと思っています。

行政的には、住民の安全・安心を守る・させる・していただくということを最優先に、行政的組織と防災対策組織でしっかりと訓練を重ねていきたいと思っています。

先般の台風23号のときに俣野川の下蚊屋集落上流において、急傾斜から河川内に土砂や立木が落ちてせき止めたような状況がありました。県土整備局から緊急に対応いただいて、住民の安全を確保出来ました。今回初めて経験をいたしましたので、今後町内においても、せき止めによる水災害の可能性もあと想定をしていきたいと思っています。



竹内町長

溝口町

近年、町の水害でこれといったものはありません。しかし、日野川の警戒水位をかなり超えることがありましたので、大江川の合流点から野上川の合流点までの堤のかさ上げが今後の大事な課題ではないかと思っています。

溝口町における伝達方法としましては、町内24カ所あります屋外防災行政無線と、町のCATVでの音声告知放送があります。そして溝口町防災マップがあり、この中には水害ばかりでなく、土石流、地すべり、急傾斜等の危険箇所を載せて、住民の意識の高揚を図っています。



白根土木課長

鳥取県県土整備部河川課



村下 計画係長

水防対策ということで、このたびのたび重なる豪雨災害を教訓にソフト対策の方にも力を入れていくということにしています。

まず「リアルタイム情報の提供」。今年度単県事業で雨量、水位、土砂災害警戒情報のインターネット配信事業に取り組み、現在はパソコンと携帯電話で、水位、雨量、土砂災害の警戒情報が閲覧できるようになっています。

次に「危険情報の周知」。浸水想定区域図の整備公表及び市町村の洪水ハザードマップの作成です。鳥取県ではまだ浸水想定区域図を作っていないので、作成促進を図ろうと、17年度から順次作成するように現在予算要求をしています。

それから「水防活動体制の強化」。洪水予報河川と水防警戒河川の指定を現在検討中です。非常に危険な河川につきましては指定に向けて取り組んでいきたいと考えています。

最後に「市町村の防災意識強化」。今後、市町村との意見交換会や、関係部局との協力で図上訓練を実施していきたいと考えています。

鳥取県西部総合事務所 県土整備局

管内に16水系、34の河川がある中で、危険情報の周知ということから重要水防区域を再点検しています。特に計画流量の多いところについて調査しており、この日野川水系では小松谷川、東長田川といったところを調査しています。

このほか定点カメラを設けるといことで現在、米子市旧加茂川の灘町橋のあたりにカメラを設置する予定、リアルタイムで見てもらおうという取り組みをしています。



林 河川砂防課長

鳥取県日野総合事務所 県土整備局



播磨局長

住民のみなさんは、洪水ハザードマップを見ていただいて、洪水が出て堤防が切れたら自分の家はつかののではないかと認識を常に持っていたいただきたいというのが希望です。

災害は情報戦です。県もインターネットで情報を流すということなので、情報を大切に災害に立ち向かっていっていただきたいなというふうに思います。

今年是他県で大きな水害があり破堤をした関係で重要水防区域の見直しがあり、日野の管内でも行いました。一番危険な箇所は築堤河川で、これが切れますと豊岡のようなこととなります。溝口町に築堤河川がありますので、十分認識していただきたいと思っています。

日野郡の管内のうち日野川本川で一番危険なところは霞地区と認識していますが、なかなか予算が厳しく河川改修の予算がつかない状況が続いています。

災害が起きてから予算がついたのでは非常に後手になりますので、ぜひとも予算に対する御支援をいただきたいと思っています。

国土交通省日野川河川事務所



茅原事務所長

日野川は平成8年に洪水予報指定河川に指定されています。国土交通省と気象庁で、雨、河川の水位等の情報を検討し洪水の予測、予報をしており、洪水注意報や洪水警報あるいは洪水情報について鳥取県を通して各自治体へ、あるいは一般の方々に対してはテレビ・ラジオを通して流しています。但し過去あまり大きな洪水がなかったために、数回しか流してないという状況です。

また私どもの水位観測所のデータや雨量は、河川情報センターからインターネットを通じて携帯電話で、一般の方でも入手できるようになっています。

それから、ハザードマップをつくるようにしています。このマップで避難場所等を告知することについて、私どもも協力したいと思っています。

それともう一つ。私どもは毎秒0.5トンの排水ポンプ車と照明車を用意しています。私ども以外の事務所にもございますので、非常時に自治体から要請があれば、いつでも出せるようにしています。

「地域の方々とともに」

昨年、日野川においては、大規模な出水まで至りませんでした。異常気象等の状況を考えると、当地域において、いつ大規模な出水により被害が起きてもおかしくありません。いつ起きてもよいように常日頃からの「備え」が必要です。

地域のコミュニティーを大切にするとともに、非常時の持ち出し物や避難場所等普段から考え、準備し、避難がスムーズに行われるように備えることが最も大切ではないでしょうか。

行政は、ハザードマップの作成・周知や避難勧告等の発令基準、伝達方法の体制等をしっかりしておくことが必要であり、地域の方々と一体となって、水害に対する認識を深めていくことが重要だといえます。